

熊本豪雨被災地や瀬戸石ダム視察 嘉田由紀子氏ら超党派の国会議員

https://kumanichi.com/articles/1367482?check_logged_in=1

超党派の国会議員でつくる「公共事業チェックとグリーンインフラを進める会」は25日、2020年7月の豪雨で被災した球磨村や球磨川流域の瀬戸石ダム（芦北町、球磨村）を視察した。

嘉田由紀子参院議員や山崎誠衆院議員のほか、流域住民ら約20人も同行。球磨村渡地区の千寿園跡で被災時の状況を確認し、犠牲者を悼んで手を合わせた。宅地かさ上げが進む神瀬地区では、住職の岩崎哲秀さん（50）が「住民に対する十分な説明がないまま事業が進んでいる」と訴えた。

一行は視察後、八代市の国土交通省八代河川国道事務所を訪問。嘉田氏と山崎氏が担当者に「豪雨時、人吉市の山田川と万江川の氾濫時間について住民と国側で相違がある。瀬戸石ダムがなかった場合の洪水被害はどうだったのか」と疑問を投げかけた。

終了後、嘉田氏は「川辺川に計画されている流水型ダムの必要性について、意見交換する場の設置を県に求めたい」と話した。（金村貫太、上島諒）

【写真】球磨川の堤防上で参加者と話し合う嘉田由紀子参院議員（右から2人目）＝25日、球磨村

